

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2015 年度（後期）指定公募

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」
完了報告書

「おむつフィッター3級石垣研修」

申請者：今村 昌幹

所属機関：八重山地域医療研究会

提出年月日：2017年1月18日 r

完 了 報 告 書

おむつフitter3級研修会（2016年12月10日、11日開催）

2017年1月18日
八重山地域医療連携研究会
代表 今村 昌幹

離島である八重山地区の看護・介護職員にとっては、島外である研修に出席することは、旅費・宿泊費という経済的にも、移動に時間がかかるので長く家庭を留守にしなければならない点からも、負担がかさみ容易なことではない。このたび、八重山地域医療連携研究会では（株）はいせつ総合研究所・むつき庵の協力、石垣市の共催を得て「おむつフitter3級研修会」を開催しました。特に公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団による2015年度(後期)「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」によって、受講者にとっては地元でかつ経済的負担も少なくハイレベルの研修を実施することができたので報告します。

【開催概要】

日程 2016年12月10日・11日（二日間）

会場 沖縄県立八重山病院会議室

受講費 地元参加者限定 ¥5,000
(通常参加費¥20,000)

受講者 35名

主催：八重山地区地域連携医療研究会・石垣市

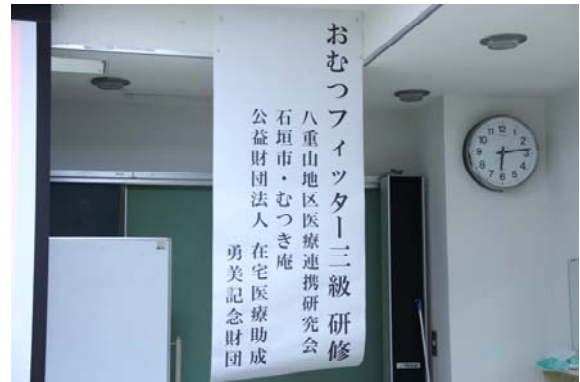
研修担当：（株）排泄総合研究所 むつき庵

スタッフ：

むつき庵：浜田きよ子氏ほか3名

他にボランティアスタッフ3名同行

泌尿器科医師：沖縄県立中部病院 新垣義孝氏



【参加者】

石垣市内の介護施設 9、病院 2、販売業者 2 の 13 施設から計 35 名が受講した。

職種は看護師 9・ケアマネージャー 3・介護福祉士 9・介護職 8・その他販売業者など



【研修内容】

おむつフitter3級研修は、排泄ケアの基本編として、基礎知識を学びんだ。

・1日目の研修内容

1) 排泄ケアのための総論と排泄用具の総論・選び方をむつき庵代表である浜田きよ子氏の講義。

◆排泄ケアの総論：

- ・排泄ケアはその人全体を見ること
- ・アセスメントと分析の重要性
- ・姿勢と排泄の関係とその管理等

◆排泄用具の総論・選び方：

- ・適切な排泄の姿勢、ポータブルトイレの姿勢保持具・排泄動作を助ける道具・排泄用具／尿器、差し込み便器、補高便座等、自動採尿器、ポータブルトイレの選択／移乗動作の検証、衣服と排泄の関係。



◆おむつの種類と使い方：安易なおむつの使用がもたらす様々な問題点、おむつを選ぶための排泄のアセスメントの重要性、排泄アウターと排泄インナーの組み合わせ、おむつ選ぶための排泄インナー（尿を直接吸収するもの＝尿とりパッド等）、排泄アウター（排泄インナーをしっかりと固定するもの＝テープ止め紙おむつ、パンツ型紙おむつ、布製ホルダーパンツ等）の検証では、実際に受講者をモデルに、衣服の上からではあるが紙製品・布製品の排泄アウターを履いて供覧。

2) 排泄の仕組みの学びとして「排泄ケア—排尿障害—」の講義を、沖縄県立中部病院 泌尿器科医師 新垣義孝氏の講義。

◆排泄に関する生理

◆排泄障害（下部尿路症状、尿排泄障害の原因・治療・対応）

◆さまざまな排泄障害と治療、対策

◆尿道カテーテルの適用、問題点、適切な使用方法



3) 排尿体験

1日目の夜、課題としてテープ止め紙パンツと尿とりパッドを装着して実際におむつの中に排尿することで、実際に使っている方の身になって身体的状況の把握、心の問題を体験・体感した。また、どの姿勢で排尿すると、尿とりパッドやテープ止め紙おむつのどの部分が濡れるかなど、観察することの重要性を体験。

・2日目の研修内容

■午前中

班ごとに分かれての実習をした。

1) おむつの当て方：衣服の上からではあるが、尿とりパッドを入れたテープ止めタイプを装着体験。体の動きを阻害しない適切な当て方。また、漏れを起こさないためのパンツ型紙おむつの装着について学ぶ。



2) おむつの吸水実験：テープ止め紙おむつを見本に、立体ギャザーの役割と重要性、尿とりパッドの重ね使いが適切でないことの検証、フラットシートが尿とりパッドとしては不適切であることの検証、両面吸収シートの使い方等。



3) 残尿測定器の説明と実測、排泄用具の検証：残尿測定器<リリアムα-200>を使い、受講者の残尿を実測し、残尿がもたらす問題点等を学ぶ。また、排泄用具を知ることで、「漏れたら則おむつ」ではなく、利用者の身体状況、生活環境を考え合わせ、その方に合った排泄用具の選択の重要性を学ぶ。

■午後

6班に分かれ、一つの事例を、多職種よりなる班で分析および対応等を検証してアセスメントして10分程度で発表し、発表されたことへ相互に評価した。このことで、さまざまな職種からの視点からの検証の大切さを学び、対象者およびその家族の目標に向けて様々な職種が連携を取ることで実現できることを学んだ。

【理解度診断テスト】

研修終了後に受講者に理解度診断テストを実施。

【継続性について】

本研修の頻回実施は予定していないが、研修修了者を中心にした職場レポートなどによるフォローアップを実施したい。地域患者。対象者のケアの改善が最終成果であるとする。

【感想】

以上の講義を通して、排泄ケアの根幹である「本人の視点」「人を見る」「その人が快適で安心して排泄できるにはどうしたらよいか」、さまざま排泄用具・福祉用具の知識は排泄ケアに広がりをもたらす、さまざまな職種との連携をとることの大切さ等々を学び、気づきを深めたうえで実践して、排泄ケアが格段に変わっていくことを実感できることを期待する。そして、同じ意識を持っていくことが重要なため、今回学んだことを参加していないスタッフや職員の方にも伝達することで、地域の排泄ケアが改善されることを望んでいる。

【助成】

本研修は「公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団の助成」により実施した。

以上